

学体連会報

発行日 平成6年6月1日
 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
 国立オリンピック記念青少年総合センター内
 財団法人 日本学校体育研究連合会
 電話 (03) 3465-3954
 FAX (03) 3465-7464
 発行者 大石三四郎

「学体連」を考える

—— 浅田理事長へ 「よろしくたのむ」 ——



会長 大石 三四郎

この度、「学体連」の私の後任として、浅田理事長が会長として就任してくれることになった。何といっても目出たい。「学体連」の責任者としてやってくれる人を長い間かかって探していた私である。この人こそ、と思っていると、すぐ逃げてしまう。この人はやってくれるのかと思えば、月給をくれ、退職金をくれと、まるで自分の就職先を探すつもりでの御人が来る。

したがって、このような人物を事務の責任者にする、他の役員から文句が出る。やめさせろといっても本人はやめどころか、逆に文句をいう。最後には、この人物の月給のために、募金するようになる。考えてみれば同じ学校体育関係で、ある人は就職のため、ある人はただで働き、ある人はせせと金を集める。これでは、この「学体連」の会費を集めることもなかなか難しくなる。ある特定人物のための月給を出すのでは、誰だって積極的に「学体連」には力をかさない。

私が長い間会費を上げられなかったのは、本当の理由はここにあったのである。本人は平気で当然のような態度をしているが、世間はそう甘くない。このようなときに漸く本人に退職してもらい、ここに「学体連」の会費をあげることができたのである。退職してもらうのに10年かかった。

他の理事など役員はどうということはないが、財源のない「学体連」は金を集めなければならない。理事たちに募金をしろよといったら、皆、逃げ出すことであろう。私が会長をやめれば、募金はどうするのだろうか心配する人がいる。先ずは少ない会費

おおいしさんしろう 1916年横浜生まれ。
 東京文理大卒。筑波大名誉教授。国立特殊教育総合研究所名誉研究員。勲二等瑞宝章受賞。特殊法人日本体育・学校健康センター理事。全国大学サッカー連合副会長。
 (財)余暇開発センター顧問。(財)全国大学体育連合副会長。
 二宮金次郎のミラクル経営再建術(同文書院)。

の範囲内で仕事をしなければならないだろう。表彰も表彰状だけにしたり、その他の経費も最小限に止める必要があろう。世の中が不景気だから、当分は仕方がないことだろう。赤字を出している財団が多い時だから、会員にも辛抱してもらいより仕方があるまい。

この会の会長を私が引受たときは、私が筑波大学創設の時、多忙を極めていた。前任の会長のことを新聞でブチアゲラレタことだから、何もかくすことではないが、学校体育関係の業者も、互いに競争でケンカである。裁判沙汰までやらかす連中だから、現役の国立特殊教育総合研究所長室にやってきて、何や、かやと、やらかすので困ったものだった。それに募金するためには、運動靴の宣伝してやったり、スポーツ服の斡旋をしたり、それはそれで大変なことであった。

募金した金は天から降ってきたつもりで、会員など関係者は平気でつかうのである。それに業者の中には私から私の金を引き出そうとする人物もいる。油断は禁物であった。私は一応、会長をやめるが、「学体連」を捨てたのではない。何とか、助けていくつもりでいる。

とにかく、浅田理事長は大変なことだと思うが、助けていくつもりである。

私が最後にいいたいことは、体育関係者もこの「学体連」を育てていかなければならないことを心から知るべきだと思う。男らしい男が出てほしいものだと思う。

'93年度 学校体育の動向



理事長 浅田 隆夫

Ⅰ. 新学習指導要領に関わる施策

新指導要領に関わる「中央」の主な施策事項は、次のような内容があげられる。以下、日時をおってみてみよう。

○文部省では、平成2年12月「教育課程実施状況に関する総合的調査研究」を実施する研究会を発足させた。本調査のねらいは、新指導要領における各教科の目標や内容の実施状況を把握して新要領で期待されている学力が実際の程度子ども達に身についているか、指導上の問題点は何か……などを明らかにし、その結果を将来の指導内容・方法の改善に役立てようとするものである。体育科では小学校は平成5・6年度、中学校同6・7年度中に実施・まとめ（報告）をすることになっている。

○平成3年2～3月にかけては、「小学生のスポーツ活動に関する調査」を実施し、運動部活動の現状や子どものスポーツ実施についての児童・保護者及びスポーツドクターの意識を明らかにし、その概要を公にした。これに続いて、小学生の各種スポーツ大会の実施状況を調査することになっている。

○平成5年5月、「水泳」及び「柔道」の手引書の改訂版が刊行された。水泳指導は、従来より1学年早め、4学年から履習することとし、内容は「逆飛び込み」が削除され、「スタート」が泳法指導（クロール・バタフライ・平泳ぎ・背泳ぎ）と関連して分かり易い図表（図示）で導入されている。

柔道は、名称を格技から武道（伝統的な行動様式を重視）に改め、1つの運動領域として男女選択履習とし、また、練習と試合の章（4章）を新設し、技能差に応じた試合例が示されている（5章）。両手引書ともB5版で見易くなっている。なお、「剣道指導の手引」の改訂版も近刊の予定とか。

○平成5年7月には、昭和56年度以来12年ぶりに文部省では「高等学校生徒指導要録の様式等の改訂」を行なうべく関係筋に連絡がなされた。

改訂の基本方針には、1)新指導要領の志向する学力観に即した教育の実践に役立つようにすること

あさだたかお 1919年、兵庫県生。東京文理大卒・同研究科修。筑波大名誉教授、教育学博士。現在 目白学園女子教育研究所顧問、日本道徳教育学会常任理事、日本レジャーレクリエーション学会会長、日本スポーツ教育学会会長、日本体育学会体育科教育専門分科会顧問、日本スポーツ哲学会名誉会長など。

2)生徒の特性を総合的に評価し、個性の伸長に役立つようにすること 3)高校の個性化・多様化に対応させること 4)要録に記載する内容の精選や保存期間の短縮及び保存管理の方法などを整備すること 5)この実施は平成6年4月以降の第1学年より適用すること……などがあげられている。

また、各教科・科目の評定は、従来通り5段階で表示することになっている。保健体育の評価の観点には、(1)関心・意欲・態度 (2)思考・判断 (3)運動の技能 (4)知識・理解に分けられており、この中、特に(1)の「やる気」の評価が重視されている。

○10月には「集団行動指針の手引」の改訂が行われ、その特色として次の点があげられている。

集団行動の基本的な行動内容・様式とその取り扱い方を学年に配当し、特に、(1)小学校4年生の「横隊の集合・整頓」の取り扱い方を削除し、(2)「列の増減」の方式を変更し理解し易くした。また、(3)新要領の改訂に合わせて、いくつかの学習内容における集団行動の様式の例示に工夫をこらした。(4)特別活動の内容改訂に合わせて学校行事等の内容を改めた。(5)B5版にし見易くした……などとしている。

Ⅱ. 生涯スポーツへの学校体育に向けて

新要領に基づくこれらの調査や指導の手引書は、スポーツすることの喜びを重視し、スポーツすること自体が新しい学力観に立つ子どもの能力となるように教師自らが覚醒することにおかれているといえよう。このために教師は、スポーツの内在的価値を志向して、そこから導き出されるねらいを現代化しなければならない。それは、スポーツ文化・技術体系を重視し、そのもつ系統的学習を基本とすることになる。本年度、当「学体連」でも「中学校教科体育の選択制授業のあり方と進め方」を公にしたが、生涯スポーツとの関連を考えた場合、特に、子どもの生活と教科との関連を重視し、教科で学んだことが、即子どもの生活となるように指導していくことが基本になる。

学校体育指導上の課題

—選択制授業を効果的に推進するために—



常務理事 椎木 琇蔵

1. 選択制授業と選択教科の授業について

平成5年度から新教育課程の実施により、各教科における選択履習幅が拡大され、保健体育においては、従来の必修教科の授業に加えて、選択教科としての授業が3学年から2学年まで拡大されて、生徒が教科を選択する選択教科の授業が行われるようになった。

一方、保健体育科の授業においては、選択制授業がとり入れられるようになった。選択制授業では、従来、教師が選択し、決定していた学習内容について学習者である生徒が選択できるようになった。生徒の運動能力や興味、関心に即して、学習課題の選択から運動種目内の選択へ、運動種目内の選択から運動種目間の選択へ、さらに、運動種目間の選択から運動領域内の選択へと生徒の選択する幅が典型的に拡大されている。選択制授業は、選択教科の授業だけではなく、必修教科の授業において当然行われなければならない。

選択制授業を効果的に推進するためには、必修教科の授業において各学年ごとに段階的に選択の幅を広げるとともに、選択教科の授業へと発展させるよう計画的に学習させることが大切である。

しいきしゅうどう 1933年、山口県生。東京教育大学卒、杉並区立松ノ木中、三鷹市立第二中、昭島市教委・都教委指導主事、都教委主任指導主事、三鷹市立第四中学校を経て、現在 豊島区立千早中学校長、現都中学校保健体育科研究会会長。

2. 必修教科と選択教科との関連を図った単元指導計画の作成について

保健体育科の授業については、必修教科としての週3時間の授業は、生徒全員が学習するが、選択教科としての週1時間の授業は、教科選択した生徒のみが学習することになる。したがって、「2学年で選択希望するのみの生徒」「2学年では選択希望しなかったが3学年で選択希望する生徒」「2学年、3学年と継続して選択希望する生徒」と多様な運動経験をもった生徒が存在することになる。さらに、選択制授業による運動種目や運動領域の生徒選択が行われるわけだから、どの授業においても多様な運動経験、能力、興味・関心をもった生徒が存在することになる。

これらの生徒に対応して運動の楽しさや喜びを深く味わわせる授業を展開するためには、単に、運動種目や領域を配列した年間指導計画でなく、指導内容を系統的、段階的に配列したものを、さらに、生徒一人一人が、どんな内容をどのように学習したらよいか、つまり学習課題達成的な内容として具体的なものにし、それを単元として区切り、必修教科と選択教科と関連させて配列した単元指導計画を作成することが大切である。

全国百万人以上の愛好者に喜ばれる

ミリオンパワー(新・栄養源 完全無臭ニンニク)の秘密

—かつて、ノーベル賞候補にも指名され、ニンニクの完全な臭い除去に成功された小牧久時農学博士の談話から—

談話Ⅰ 実は私も子どもの頃、体が弱かったものでそれでよくニンニクを食べさせられました。もちろん健康にはなったのですが、あの臭いには開口。何とか臭いのないニンニクをつくれぬものかと、研究に取り組んだわけです。調べてみると、臭いの成分というのは刺激が強すぎて、逆にいろいろな害を及ぼしたりするのですね。で、バイオテクノロジーの最先端技術を使って完全無臭化に成功したのですが、結局20年もかかりました。栄養分をそのままに無臭化するの、現在、この方法しかないと思います。

談話Ⅱ ニンニクは、現在発見されているだけでも約20種類の栄養素をもっているんですが、まだ未知なものも含めて、この栄養成分をサチヴァミン複合体と言っています。体にいいとされているのは、つまりサチヴァミン複合体の効能なんですね。また、動物や植物の細胞の活性化には、濃縮されたサチヴァミン複合体が有効であることも知られています。健康の根本である、細胞にとってもニンニクはまさに素晴らしい野菜だと思います。

小学校体育と評価



常務理事 野口 修 二

これからの学校教育には、知識を伝え、技能を身につけさせていくことだけでなく、一人一人の児童に、生涯を通じて自ら学ぶ意欲をもち、心豊かに、主体的、創造的に生きる力を育てることが求められている。

体育科の学習においても、生涯体育・スポーツの視点に立って運動やスポーツに親しみ続けることができるように、運動の楽しさや喜びを味わわせ、運動に対する興味、関心、意欲を育てることが大切である。

まだ、児童が個々の能力に適した課題を設定し、その達成に向かって運動の仕方を自ら工夫したり、友達と協力したりしながら主体的に学ぶ力を身につけさせることが重要である。

これらの課題の達成を図っていくためには、多くのハードルがあるわけであるが、最近、多くの学校や研究団体、また、研究会のうちに採り上げられている「評価」の問題がある。

これまで、体育科の評価においては、運動技能のできばえや運動課題の達成の程度に価値をおく教師主体の評価が中心となる傾向があったが、これからは、「個に応じた」「自発的、自主的」な学習が展開されなければならないことから、教師の支援のあり方とも関わって、評価のあり方を十分見直していく必要がある。

1. 評価の見直しの視点

体育科における学習評価は、生涯体育・スポーツの実践に生きて働く力の育成をねらいとし、学習を自発的・自主的に進める力がどの程度身に付いたかを内容として、児童と教師が行う活動である。

体育の学習を自発的・自主的に進める力を身につけていくためには、以下の視点から評価を見直していくことが大切である。

- (1) 教師による評価から、児童自身による自己評価へと、児童主体の評価に重心を移していく。
- (2) 学力診断や指導の改善を目的とする教師のため

のぐちゅうじ 1934年、埼玉県生まれ。東京学芸大学卒。区立上石神井小、文成小、志村第五小、高松小教諭、東京都品川区教育委員会指導主事。区立大成小学校校長を経て、現在 豊島区立池袋第五小学校校長。東京都小学校体育研究会会長。

の評価から、児童の学習を促進し、学力を身に付けていくことを直接のねらいとする児童のための評価へと評価の機能を児童の側に移していく。

- (3) ランキングのための相対評価から、めあてへの接近の程度や自分自身の進歩の程度を中心とした絶対評価へと評価観を転換する。

- (4) 技能の習得や達成度及び知識の量を中心とする評価から、意欲や楽しさの求め方を重視する評価へと評価の観点を変えていく。

2. 評価の観点と評価間の相互関連

これからの体育では、一人一人の児童に運動の楽しさを味わわせるために、「どのようにめあてをもち、どのように運動の行い方を工夫し、活動すればよいか」という楽しさの学ばせ方を重視していかなければならない。

したがって、評価についても、次の二つの観点を中心となってくる。

- (1) 運動の楽しさや喜びがどの程度深まったか。(関心・意欲)
 - (2) その楽しさはどのような楽しさの求め方によって獲得することができたのか。(思考・判断)
- 併せて、これら二点の軸がうまく関連しあった結果として
- (3) どんな技能が身に付いたか。(技能)
- を評価していくことが大切である。

運動の学習評価については、まず最初に技能があるのではなく、技能を受け入れる素地としての意欲があり、思考・判断の働きを通して技能が身に付くという関係を認識した上で、観点別に評価されるよう配慮することが重要である。

3. 児童の評価活動と教師の支援

教師は、児童の自己評価が円滑に、しかも、自発的・自主的に学習を進める力が身に付くように機能しているかを評価しながら、児童のよさや可能性を引き出す立場に立って、適切に支援していく役割を担っている。



常務理事 松田 智 男

第32回大会(山梨県)「理事・評議員会」及び「代表者会議」議事録

日時 平成5年11月10日(水) 14:05-16:30

会場 山梨県立県民文化ホール 会議室

議長: 浅田隆夫理事長 司会: 神田俊郎常務理事
記録: 松田智男常務理事

報告事項

1. 平成5年度理事・評議員・代表者会議の議題と資料1～7までの説明と確認
2. 平成5年度第1回理事・評議員会の報告
 - 1) 平成4年度の事業・決算・監査報告の承認
 - 2) 平成5年度の事業計画・予算案の審議と承認
 - 3) 平成5年度全国保健体育優良校・功労者表彰
 - 4) 平成5年度以降の全国大会と第32回山梨大会
 - 5) 地区別協議会及び都道府県の組織強化
 - ・東海・北陸地区へ長野県を移す。
 - ・幼稚園の組織強化を県段階でも推進する。
 - 6) 中学校体育指導書の出版
 - 7) 大阪学体研協議会の意見書とその回答
 - 8) 分担金の見直し: 大阪の3つの案を検討、全国大会で方向性をだし平成6年度から出発したい。
 - 9) 平成5年度の研修会内容と常務理事事務分担
 - 10) 平成5年度の理事・評議員の選出: 毎年5月20日頃迄に決めて欲しい。
 - 11) その他: 石川大会の紹介と功労者の増員手続き
3. 平成4・5年度常務理事事務分担

分担は総務・会計・庶務・事業の4部で、全体の責任者は大石会長。総務は神田、会計は金森、庶務は岡野、事業: 高校は松田、中学校は椎木、小学校は野口、幼稚園は菊地の各常務が主に担当します。
4. 平成5年度役員・理事・評議員

毎年、文部省に提出する書類の一部なので、できれば5月20日頃迄に決め、本部に報告して欲しい。
5. 中学校指導書「選択制授業の計画と展開」の刊

まつだともお 昭和5年山形県生まれ。東京教育大学体育学部卒業、芝学園、区立城南・三河台中、都立城南・稲城高教諭、都立京橋高教頭、都立八王子北高校長。元関東地区高校・東京都高校保健体育研究会会長。現在東京都教育庁人事部人事計画課嘱託。

行と申し込み状況

刊行の趣旨と経過について説明。

すでに、二千部頒布したが四千部印刷してあるので、各県は頒布にご協力頂きたい。チラシは全国の各中学校に送ったが、11月5日現在、二千余部でています。非売品で一冊千九百円で他に送料がかかりますが、希望者は学体連事務局へ直接申し込む。

6. 研修会について

5年度は、幼稚園: 7月31日 8月1日、黒門小学校で約50名参加。小学校: 8月2・3日、時習小学校で83名参加。中・高校: 7月9日、都立砂川高校で76名参加して硬式テニス指導法の研修会を行いました。

6年度は、幼稚園: 7月28・29日。小学校: 8月上旬、中・高校: 7月上旬を予定しています。要項は早めに作成して各県の事務局に送りますので、多くの先生方が参加できるように協力をお願いします。

審議事項

1. 平成6年度以降の全国大会

平成6年: 石川県、7年: 香川県、8年: 秋田県、9年: 奈良県の予定です。10年: 中国か四国、11年: 東部、12年は中部地区と東部-中部-西部とローテーションを組んでいます。平成10年第37回大会は中国か四国ですが、ブロック毎の話し合いの時に方向性をだして欲しい。
2. 分担金の見直しについて

3年越しの議題ですのでご協力願います。現行の分担金は約30年前に6万・4万・2万円と決まり、その後一度も値上げしていません。近年、本連合会の会計は大変に苦しく毎年見直しを提案してきました。大石会長のご努力で賛助金費一千万円以上集めて頂いていますが、いつ迄続くか疑問です。できるだけ分担金で健全な財政を確保した

い。全国大会助成百五十万円、理事・評議員会約百万円と、分担金だけでは基本的な本連合会の事業すら赤字です。

本部として、平成6年度から、現在の分担金12万円を2倍近くまで値上げしたい。30年前に決めた時、基準が不明確だったので、本日のブロック会議で率直な意見を、お聞かせ願いたい。

大阪学体研高橋理事の説明と意見：全国組織の団体が繰越金18万円では、苦しい事情が理解でき、値上げはやむをえないと思います。本部は資料6-2を検討して3案を決めたのだと思う。そこで、基本的には値上げ率は何の程度やるのか、そのためにどうするのか、個々にどうするのかの3段階が必要です。客観的で妥当な案を考えて欲しいと思います。

Q. 分担金値上げの見直しは「見直し」ですか、「提案」ですか。 (大阪：高橋理事)

A. 表現上は見直しですが、本音は提案です。

3. 長野県の所属地変更とそれに伴う理事・評議員の定数移動について

行政上また高校の研究会や高体連の組織上からも、長野県を東海・北陸地区に移したい。この件は長野県の会長も了承しています。それに伴い、関東・甲信越地区は関東地区に変わります。東海・北陸の理事が2名から3名に、評議員9名が10名となります。関東の評議員は12名から11名、理事はそのまま5名にしたい。全国の評議員は今迄どおり55名、地区理事は18名が19名になり、総理事数は29名以内となります。

Q. 組織を強化するためにも9ブロック制にしてはどうかと思えます。理事は増やす必要はないと思えますがどうですか。 (大阪：高橋理事)

A. ブロック制と地区別理事については、本部で検討いたします。

4. 「学体研」の組織強化について

5. 学校体育の諸問題について

今迄の理事・評議員会では各地区の実状や問題点について報告されています。ブロック毎の会議でも、良い点を学び合い、反省して活動をすすめているとの報告があって、学体研の組織が今迄以上に強化されてきています。話題となったものに「人生の基盤である幼児教育を充実する」「体育指導者の資質向上」等があります。そこで、県やブロック段階の組織強化が更に必要になってきます。組織強化のために、また問題解決のために、

本部にご注文下されば有り難く思います。

議長：組織強化の問題は、本部と各県やブロック・地区との連携、ブロック内やブロック間の連携を密にすることです。特にブロックがまとまるのが最も大事です。

6. 会報等の発行について

3月末に発行します。会報の送り先は、特に希望がなければ会長宛に送ります。内容は全国大会や次期大会はもちろん、今年は組織強化と関連している、北から南からの研究活動を掲載します。各学校への配布にご協力をお願いします。

7. 次期開催県の準備状況 (石川：小藤理事)

平成6年10月20日(木)・21日(金)に行う予定で進めています。今後、文部省や学体連と連絡を密にし、指導を仰ぎながら進めて参ります。14分科会場の準備も着々とできつつあります。多くの先生方のご参加をお待ちしています。

8. その他

意見：今年、山梨大会と保健大会と大きな大会がかけ合い、参加者が減り、研修する機会を失った先生もいます。ダブらないように、日程の調整をお願いしたい。 (大分：大津留理事)

ブロック会議の発表内容

3つの項目について話し合いを持ちましたが、3番目の「体育指導書の頒布促進」は、どのブロックも協力して下さるので割愛します。

北海道・東北ブロック (北海道：玉置評議員)

○分担金の値上

げ：1案を考

えています。

県毎に話をし

て頂いたが、

岩手県は現行

通り、他の県

は時代の趨勢から、1案の2倍になるのはやむ

をえない。但し、2年位の猶予が欲しい。

○10年以降の全国大会：8年は秋田が決まり11年は関東です。今迄に開催していない岩手や青森も開催する腹積りでいるが、もう少したってから具体化したい。

関東ブロック

(千葉：梶尾理事)

○分担金の値上げ：具体的には茨城1案、栃木2・3案の順、群馬2案、埼玉1・2・3案の順、千葉3案、東京は決定に同意、神奈川3案、山



細見眞道氏
ミリオンの社長



100%無臭ニンニクを実現したミリオンパワー。

ニンニクの栄養分を損なうことなく、特有の臭いだけを取り除きました。

健康に、美容に、お料理に、
臭わないから安心です。

現代人の「新・栄養源」ミリオンパワー。

ニンニクの栄養素は他の野菜に比べて、エネルギー量、ビタミン、ミネラルが非常に多く含まれています。その他にも、リン、カリウム、ビタミンB₁、B₂や、最近話題になっている有機ゲルマニウムも多量に含まれていますから、まさに「自然食品の王様」。

ミリオンパワーは、そんなニンニクの有効成分だけを抽出して、一包あたりニンニク3〜4個分の栄養素を凝縮してあります。粉末だから、さまざまな料理や飲み物にふりかけるだけで、手軽にニンニクの栄養素を取ることができます。ミリオンパワーは、多忙な現代人の「新・栄養源」です。

自然農法によるニンニクが原料。

原料となるニンニクは、農薬や化学肥料を使わず、天然の堆肥と労力をかけた自然農法で作られたものです。自然農法産と化学農法産とは、普通の野菜や果物においても、栄養価の面で大きな違いがあります。ミリオンパワーは、原料加工から製品に至るまで、化学合成や添加物、保存料などは使用していません。

ほそみさみち

1935年 埼玉県熊谷市生まれ。
日大工学部卒、理学博士。ミリオン
K K、及び同物流K代表取締役。
米国地球環境大学大学院教授。
同大学組織委員会委員。

梨は大会準備のために意見を聞けませんでした。
○10年以降の全国大会：11年は東北で未開催県・関東で開催した県でも、希望があれば尊重したい。毎年、大会時に話し合い各都県に持ち帰って検討しています。

東海・北陸ブロック (石川：小森理事)

○分担金の値上げ：1・2案を指示する県もあるが、半数以上が3案でやむをえない。

○10年以降の全国大会：12年に中部地区が当たっているが、時間的に余裕があるので、皆さんと相談して決めたい。

近畿ブロック (大阪：高橋理事)

○分担金の値上げ：一部充分に検討していない県もあるが、態勢として値上げはやむをえない。但し、納得のいく方法で決めて欲しい。

○10年以降の全国大会：9年に、奈良県がだいたい開催する意向です。

中国ブロック (島根：高橋理事)

○分担金の値上げ：基本的に値上げはやむをえない。加盟団体数や生徒数も考慮し、一度に上げるのは無理で、50%位にして欲しい。

○10年以降の全国大会：7年は香川県でやるので11年は中国でやるように努力したい。

九州ブロック (大分：大津留理事)

○分担金の値上げ：一昨年に話し合いが済んでいる。値上げはやむをえない。1〜3案迄の具体的な値上げについては11月17・18日九州ブロック鹿児島大会で確認する予定です。

○10年以降の全国大会：全国大会は九州大会と兼

ねてやっています。今迄に開催していない県は福岡と宮崎だけです。来週の鹿児島大会で結論がでると思います。

「分担金の値上げ」についての本部提案

各ブロックで多少ニュアンスは違いますが、「値上げはやむをえない」ということで、各ブロック一致していると判断しました。3案が一番多かったようです。一度に2倍は困るというブロックもありました。「平成6年度から分担金を値上げさせていただきます」。具体的には学校数や生徒数を考慮し、早急に、常務理事会で検討し、それぞれの県に本部からご相談致します。だいたい2倍の線で、各都道府県の意見を考慮し、本部で具体案をつくり、各県に示したい。

議長：只今の提案に対し、ご賛成頂けますか。

(拍手にて承認される) 先生方の意見を集約し、本部で検討し、各県と本部で具体的な折衝をし、平成6年度から値上げをしますので、よろしくをお願いします。

大石会長：以前、各県に10万円の補助金を出していました。これが5万円になり、3万円になりその3万円も出せなくなりました。分担金の値上げによって、補助金を出せるように努力したいと思っている。

司会の神田常務理事より

平成5年度第2回理事・評議員・代表者会議を終ります。ご協力に感謝いたします。

— 分科会会場 参観記 —

第1分科会 <常務理事 菊地明子>

山梨大学教育学部附属幼稚園 園長 小林雪歩

この日雨もよいの空は少しづつ笑顔を見せはじめた。附属幼稚園の通園エリアに近づくと、お母さんと、またはおばあさんとそしてお父さんと手をつないで登園する園児がみられる。けやき、マロニエが紅葉して溜息がでるような秋の自然にかこまれている。「遊びを通しての動き……」のテーマで今日の保育は展開されている。登園するとすぐ身のまわりの

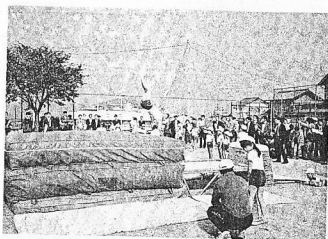


の仕末—カバンをかけ上着を着かえたり等、健康生活のひとこまが活動され、そして友達とさそい

合って外へ。外は中央のトラックの周辺にある運動的活動を誘い出す遊具がおかれていて、それぞれ気に入った所へかけていく。実りの秋、体を動かしてなにかをする習慣がついている感じ、大きな銀杏の

木の下では、リズムに合わせて次々と歌とオドリが展開されている。お客さんが絶えないのでオドリ手は大変。しかし代りあって休息も入れている。自分達で動と静とを組み合わせている。

健康の領域には①先生や友達とのふれ合いで安定感を、②遊びの中で十分に体を動かす、③進んで戸外で遊ぶ、④様々な活動を楽しむ、⑤健康生活のリズムを身につける、⑥身の回りの自立、⑦生活の仕方を知る、⑧病気の予防、健康への関心、⑨安全な行動、等身につけさせたい内容がある。この園庭で展開されている園児の動きは、これらの内容に関連し、それぞれの年齢の発達課題をとらえて活動されているように思われた。研究発表は、この園が数年前より取り組まれている「子どものこころとからだを育てる保育を求めて」—遊びを通しての動きの教育—を身体的側面（形態や体力・運動能力など）認知的側面（言葉や数的能力等）情緒・社会性の側面（感情や人間関係）の三つの側面ととらえ実証的な研究発表であった。現在、幼児の運動能力は環境の変化に伴い低下の一途をたどっているがひとつの示唆にとだ富んだ発表だと思われた。



運動—おもちゃの国—1年と「マット運動」5年の4クラスで行われた。教師も児童もはだしで

の授業で、ただ楽しさに流されることなく、基礎・基本を身につけていけるような授業を目指していることが分かる授業であった。

第2分科会 <常務理事 野口修二>

勝沼町立勝沼小学校 校長 飯島英雄

「一人一人が意欲的に取り組む楽しい体育」—器械運動と表現運動を通して—を研究主題として、楽しい体育の授業を目指して研究を進めてきた学校で、周囲がぶどう畑という静かな環境に恵まれた、児童数274名の学校である。

当日は、300名を超える参観者の中で、全校体育として、全児童が1個ずつボールを持ち、音楽に合わせてのボールを使っている運動とリズムに合わせたリズムセット運動が披露された。

授業は、校庭で「器械・器具をつかった運動」2年と「表現—地球誕生—」6年、体育館で「模倣の

第3・第5分科会 <常務理事 岡野伊与次>

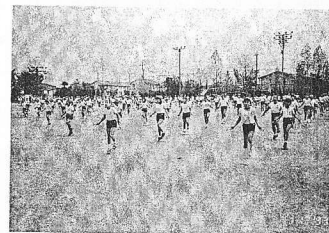
第3分科会 甲府市立国母小学校校長 岡 源輝

研究主題「自ら進んで運動する子供の育成」であり、副主題として「楽しく取り組むことのできる器械運動の研究を通して」を掲げて研究している。

児童数642名、教職員数28名、中規模校の組織で2名の教頭で学校運営をしている現状である。

明治14年の創立で、古い歴史と伝統を誇っている学校である。

参加者は約300名、公開授業は2学級であるが、その前に、業前運動があった。全校児童が広い校庭いっぱいになり、「母国小のびのびストレッチ」「全校マラソン」「リズムなわとび（高学年）」「リズムボール運動（低学年）」等四種目にわたって展開された。



前日は雨であったので、当日が大変心配であったが、薄日がさし運動日和のよい天気になり、児童

達は喜々として運動に励んでいた。特に、感動したことは、全児童の集団行動の良さであった。整列の仕方、散開の要領等きびきびと主体的な行動様式はすばらしかった。

また、それぞれの種目も発達段階に応じ、一つ一つの技に対してきめの細かな指導ぶりが窺えた。

公開授業は、1年では「器械・器具を使っている運動」（鉄棒あそび）5年では「跳び箱運動」この2学級であったが、児童ひとり一人が、自分の技を確かめ「めあて」に向かって主体的に運動に取り組んでいた。

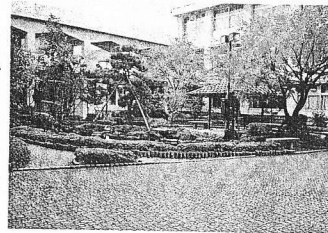
第5分科会 甲府市立富竹中学校校長 松野 傳

研究主題 「仲間とともに運動に親しみ進んで体

育学習に取り組む生徒の育成」を掲げ、特に、選択制を生かす授業の工夫を副題としている。

本校は、甲府市の南西部に位置し、大規模校の解消のために、昭和61年に20学級でスタートし、本年度創立8年目を迎える学校で、周囲は住宅地で環境にたいへん恵まれている。

特に、校舎の中央に中庭があり、それが築山風に設定され、池に取り囲まれた東屋はたいへん風情が



あり情緒豊かな雰囲気を醸している。その傍らには生徒会が開かれるスペースを持ち、周囲の廊下から見られるような仕組みになっている。生徒の自主性を重んじた学校経営が強く感じられた。

公開授業は、選択制を取り入れた授業であって、いくつかの種目から選べる選択制授業を導入して行われた。

ここでは、「バスケットボール」「バドミントン」「サッカー」「ソフトボール」「ソフトテニス」の五つの種目から、自分の興味関心によって一つの種目を選び運動していた。それによって、運動の楽しさがわかり、より興味関心が高まり、将来に向けて運動に親しむ態度が養われるであろうと感じた。

ただ、問題となる点は、学校の体育教員数は定数に限られていて、生徒の選択幅を拡大した場合は一人2種目以上を担当することになり、多少無理が起ころう時があるであろう。しかし、生徒の自主的、主体的な運動の取り組みを十分に耕すことが出来れば可能になり、相当な効果を上げることができるものと感じられた。

第4分科会 <理事長 浅田隆夫>

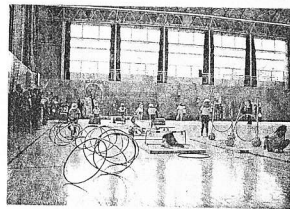
竜王町立竜王西小学校 校長 長沼元江

研究主題「自ら取り組む楽しい体育」—健康づくりの日常化・生涯化を目指して—のもとに、第

1学年では「器械器具を使っている基本運動」と第2学年の「マット運動」の授業を見学。ここでは、紙面の都合で第1学年の杉山たみ子先生の授業について触れることにしたい。

本時の指導案にみられるように、指導者（杉山先生）の教材に対する運動の特性と子どもの実態把握がよくなされ、それだけに運動の得手・不得手に拘らずすべての子どもが「体育の授業は好きだ」と答え、授業中自分の体を動かすことを楽しんでいることにまず心を惹かれた。

他方、杉山先生は、この時期の子どもは「自己中心的で」「運動の持続性に欠ける」点に着目され、単調になり勝ちな基本運動を総合的に取り扱うべく、子どものあこがれる忍者の修行内容をイメージ化して基本運動の場が設定され、忍者になり切ることへ向けて授業の統合化が計られていた。また、協力し



て運動が行えるようにクラスをグルーピングし、6つの運動場面をローテーションさせる方法がとられていた。かくして、6

つの基本運動の

場を通過するこ

とによって獲得

される技を恰も

忍者の術の修行

と見なし（例え

ば、肋木の運動

はぶらさりの

術、輪くぐりも

はもぐりの術な

どというように

）、それぞれの

技（修行した術

）を使って体育

館の一段高い

舞台中央に設け

られた忍者の

城を征服、そこ

で忍者の像（首

飾り）を獲得し

て持ち帰るとい

った設定で授業

がクライマックス

（一 統合化 ―

グループ間の競

争）に達するよ

うに仕組まれて

いた。そして最

後に、城を攻略

して忍者の首飾

りをつけた子ども

達の顔は輝き生

き生き生きとし

ていた。勝れた

アイデアに基づく

授業展開の好例

として感じ入っ

た次第。見学さ

れていた先生方

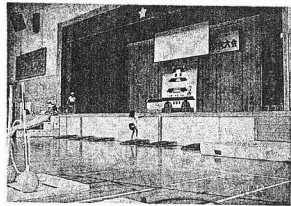
も杉山先生に心

から拍手を送り

たい気持ちで一

杯であったよう

に見受けられた。



自が確認したり、話し合いの結果の反省やまとめを記録する「学習ノート」が用意されており、生徒が主体的に活動できるよう効果的に活用されていた。

生徒の演技の様子が直ちに再現できる液晶ビューカム小型TVや、VTRが設置されることによってフォームの矯正やよい点を知るための材料となり、教師の適切な指導・助言もできるなど、生徒が学習意欲をもって主体的にとりくめるよう工夫され、成果をあげている素晴らしい授業の実践であった。



第7分科会 <常務理事 神田俊郎>

岐阜市立岐阜東中学校 校長 作地敏久、教職員36名、学級数15、生徒数889名（男子386名、女子503名）

従来の穂坂、藤井、新府の各中学校が統合され、昭和36年4月現在の岐阜市立岐阜東中学校が発足。昭和38年4月現在地への実質的統合が行なわれた。

研究主題「自ら課題を持ち運動の楽しさを実感できる体育学習をめざして（一選択制授業を通して）」。参加者140名、公開授業(1)は、保健分野で単元「健康と環境」であり、中野布美教諭指導による、パソコンを導入しての授業が、2年5組によって展開された。参加者の関心が高く、教室は各机間にも



参観者がぎっしりで、生徒のパソコン操作による、課題追求の学習課程を、熱い眼差しで参観していた。なかには空いているパソコンで、自ら授業に参加するものもいた。目標に向っての学習の道筋をそれ

ぞれが的確におさえて、パソコンを駆使し、指導者と生徒との呼吸の合った授業展開で、効果を上げている様子は、日常の研究結果が定着していることを伺い知ることができた。

公開授業(2)は、男女共習の選択授業で、広い校庭では、3年3・4・5組、指導者入戸野 充教諭によるサッカーの授業及び、3年3・4・5組、指導者 坂本 強教諭のソフトテニスで、設備のいきとどいた環境の中で、生徒たちは、グループごとに自分たちの本時の学習課題を明確に立て、その目標に向って、お互い協力し合い、明るく生き生きと授業が展開されていた。一方体育館では、これも3年3・4・5組の中野布美教諭指導による（バレーボール）の授業が行われた。いずれも生徒たちが主体的に授業に取り組み、課題解決に協力し合いながら向う姿は、学習の道筋を確かなものとする、指導者による研究の積み重ねが実を結んだものであると実感した。

午後は東京都教育委員会、藤崎武利指導主事を助言者として、研究協議会が行われたのであるが、時間の都合で、参加者の熱意を感じ参観の雰囲気から、密度の高い突き込んだ研究協議が行なわれるであろうことを想像し乍ら、その成功を祈りながら、学校を後にした次第である。

第8分科会 <常務理事 金森 久・松田智男>

山梨県立石和高校 校長 土屋松雄

3年後に創立100周年を迎える伝統校で、勉学やスポーツを通して健康でたくましく自立心に富む生徒の育成を目指して努力している学校である。

研究主題「自ら進んで運動を実践する選択制授業をめざして」。2年生が修学旅行のため、1・3年生の公開授業であった。1年生8学級のうち4学級同時展開で、サッカー、バスケットボール、バドミントン、卓球、テニス、ソフトテニスの6種目を実施。3年生は3・3・2学級合併により1年生と同種目を行う。サッカー以外は男女共習。とくに、1年生女子は家庭科2単位があるため、学習集団の編成などについて創意工夫がみられた。

昭和55年度から球技の選択制授業を3年生に実施してきた経験から平成4年度に選択制授業に向けての詳細なアンケート調査を行い、平成5年度から全学年に導入した。1学期間実施後の課題として、

ゲーム主体に進めながらも、授業における課題設定やその意識を前面に出せる指導の工夫。教師が変わるリーダーの育成。グループノートの活用と種目ごとの工夫。個々に応じた指導の工夫。評価などがあげられていた。各種目の授業見学から、生徒が積極的に、自主的に授業に取り組む意欲的な学習態度に接し、選択制授業のねらいが達成されると確信した（金森記）。

県立甲府第一高校 校長 伊藤嘉雄

本校は明治の初期に開校し、2万8千余名の卒業生を世に送り出し、各界で活躍している県下随一の伝統ある進学校です。

研究主題「自ら進んで自己の能力にいかむ生徒の育成」で、甲府一高：深沢教諭の「強行遠足」についての発表を参観した。強行遠足は大正13年に初めて実施され、今年で67回目を迎えました。その工程は、男子が甲府から野辺山を経て小諸迄の103km、

女子は須玉から小海迄の46kmです。男子は14:30-40に出発し翌日の正午迄にゴールし、女子は6:30に出発し午後3:10迄にゴールするというように制限時間があります。男子45%、女子55%が完歩しています。この会は毎年反省と改善を重ねながら、学校が計画し、父母・卒業生・地域の方々・医師や看護婦さんの協力をえて実施しています。

教育目標に「自主自立、心身を鍛練し不撓の意志を涵養する」と示されているが、この強行遠足はまさに目標を達成するのにふさわしい学校行事だと思います。

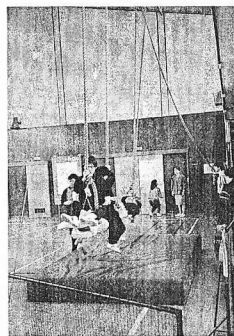
学校は安全確保に力を入れ、生徒一人一人の自覚をうながしながら、指導しています。具体的には、服装は上は学生服で下は白のトレパン。17ヶ所の検印所や救護所・補給所。交通対策では一人一個の懐中電灯のほかに、警察の指導による蛍光タスキや

テープの着用。5年毎に強行遠足用要覧を作成した資料やビデオによる新入生の指導。7割の生徒の事前トレーニング等、多方面にわたる配慮がうかがわれました。

生徒のアンケート結果では、強行遠足は素晴らしい行事である(70%)、今後も実施すべきである(80%)、自己の限界に挑戦できた(80%)、と伝統ある行事として定着していることを感じました。

最近の体育活動は、とかく苦痛を伴い危険な種目をさけ、楽しさを強く求める傾向にあるが、この催しは不撓不屈の精神を養うのに適した学校行事である事を痛感しました。

「強行遠足」が生徒にとって、青春時代のよき思い出になるように、今後も継続されることを願っています(松田記)。



考えてゲームをすすめたり、弱点をカバーしたり結構知的要素も含んでいる。他の障害を持った生徒の教材としても使うことができる内容を持っているように感じた。午後はわかば養護とやまびこ養護の教育実践を中心とした研究発表があった。わかば養護は部活動を通じて生徒がどう変わっていったかをビデオを用いて、その経過と反省を発表された。生徒に意欲と体力と技術をつけるために工夫、練習条件を整えるための努力などがよくわかり次の機会に成果として花を咲かせることを祈りたい。やまびこ養護はボール遊びを通して低学年の児童がどう変わっていったかを克明な記録によってその学習過程を発表された。討議の時間があまりなかったが参加者に多くの感銘を与えた分科会であった。

第10分科会 <元常務理事 伊藤忠一>

山梨県立盲学校 校長 土肥一守

テーマ: たくましく、生き生きと活動する体育学習の在り方。参加者数89名。

この分科会では、盲学校の公開授業(盲人バレーボール)と三つの研究発表・研究協議が行われた。障害別の研究会は行われているが全障害を対象の研究会は学体連の大会だけである。他の障害の実態を見聞することで専門家としての視野が広がり授業改革や研究のきっかけを掴むことの可能な数少ない機会である。盲学校は明治の初めの頃から体育には力をいれて来た歴史と伝統を持っているので盲学校独自の教材・教具が工夫され授業やクラブ活動等に使われている。業間活動で中学部の生徒が音楽に合わして生き生きとした表情で楽しそうに行っていたトランポックス(一人用のトランポリンを利用して行うエアロビックダンス)もその例である。公開授業で紹介された盲人バレーボールも、ボールを転がしてコート面の面から30cmの高さに張られたネットの下を通して1チーム6人が連携したプレイでボールを打ち合う激しいスポーツである。チーム毎に作戦を

Network 地区(北から南から)だより

『北海道』の学校体育研究の現状



北海道学校体育研究団体連絡協議会
会長 金井 孝

北国に住む私たちにとって、冬をいかに乗り越えるかが毎年の大きな課題である。今年も札幌の街は一面の銀世界である。しかし、窓外を見ると、過日来的大雪にもめげず、子供たちは校庭の雪山に登り小さな子供は“尻滑り・腹滑り”を楽しみ、また大きな子供は頂上で押しくらべならぬ“落としっこ遊び”に歓声を上げている。

北国の冬は長く厳しい。そして日照時間も短い。そんな条件だからこそ、子供たちには冬を難題ととらえずに、むしろ積極的にそれを楽しみながら生活し、体を鍛え、少しでも健やかにたくましく生き続けてほしいと願う。北海道学校体育研究連盟はそんな願いを持つ先輩たちによって昭和34年に設立され現在では530名近くの会員と道内に12支部をもつに至っている。

本連盟の過去35年間にわたる歴史の中で最も大きなできごとは、やはり平成2年10月に開催した「第29回全国学校体育研究大会」である。全国各地から約2000名の体育関係者を招いたこの大会は、札幌市をはじめ全道各地で体育指導にあたっている同志のつながりを深めた。

繰り返される授業研究、そして熱い討議。そんな中で、中堅教師や若い先生方が学び、大きく成長することとなった。彼等が今日の北海道学校体育の研究活動の担い手になっていることは明らかなことである。現在、道体研連では「一人一人の生き生きとしたとりくみを創りだす体育指導」を統一テーマとして、各支部が実践研究に取り組んでいる。この支部活動が、近年非常に活発化してきており、道事務局では、12の支部によって取り組まれる実践研究や成果が、統一主題実現へ向けて年々高められることを目指し、多様な研究交流の機会を工夫している。

本年度の様子を紹介すると、次のようである。

(1) 第30回北海道学校体育研究大会(苫小牧大会)

かないたかし 昭和9年北海道生まれ。

北海道学芸大学札幌校卒、札幌市立西岡小学校校長、美香保小学校校長を経て、現在 札幌市立大通小学校校長。日本学校体育研究連合会理事、北海道学校体育研究連合会会長、北海道学校体育研究連盟顧問、北海道海外教育事情研究会会長、札幌市小学校校長会副会長。

毎年各支部持ち回りで開催される全道研究大会は本年度は紙の街で知られる苫小牧支部が主管、第30回記念大会として去る10月7日・8日の二日間にわたって行われた。全道から466名の体育関係者が集い、授業と研究発表を通して、新しい学力観にもとづいた体育指導のあり方について熱心な討論が展開された。

平成6年度の開催地は、道北の地、羽幌町に決定し留萌支部が主管することになっている。

昨年11月には、支部会員200名以上を集めてプレ大会を実施するなど、意欲的な取り組みが行われている。

(2) 第3回全道研究担当者会議(札幌市)

平成3年度からスタートしたこの会議は、全道各支部で研究推進にあたっている先生方が一堂に会しての宿泊研修である。主に体育の授業づくりの観点から、統一主題へのアプローチについて研究討議が行われる。

今年度は、11月26日・27日に「児童・生徒の追求活動を活発化する学習課題とはどのようなものか」をテーマに、それぞれの支部が実践(プリント、VTRなど)を持ち寄り、3時間を超える熱い討議が行われた。2日目は札幌支部の研究大会に合流し授業研究、研究討議にも参加した。夜を徹して行われる懇親会も含め、全道に広がる体育研究の輪が一つとなり、互いに切磋琢磨し合うこの会議は、今や北海道学校体育研究の基幹会議となっている。

(3) 機関紙「体育研究」の発行

本連盟創立以来、継続的に発刊されてきた「体育研究」は、年2回会員の手に届けられ、道内の研究状況などを紹介する貴重な情報源である。

8月には、年度の研究方向、全道大会要項、実践研究の誌上交流などを中心に通算63号を発行、続いて3月には第64号を発行する予定である。

(4) 全国大会参加報告書の作成

毎年行われる全国大会には、道事務局をはじめ各支部から多数の会員が参加している。

『鹿児島県』の学校体育研究の現状



鹿児島県学校体育研究連合会
会長 森田 齊

今日の急激な社会の変化に伴い、体育・スポーツは、単に健康や体力の増進だけではなく、生涯を通じて、生活を豊かにするためのものとして重視されるようになった。

このような大きな時代のうねりの中、学校体育においては、生涯にわたって積極的・継続的に体育・スポーツができる児童生徒の育成を図ることが体育人に課せられた命題であろうと思う。

本県体育研究連合会では、「生涯スポーツを指向し、豊かな人間性を育成する学校体育の推進をめざして」を研究主題とし、県下の小・中・高・特殊教育諸学校の各分野で研究実践を進めてきた。

本年度は、本県で第32回九州地区学校体育研究発表大会を11月に開催する機会を得、各部会において、例年よりも充実した研究実践がなされた。又平成元年度告示された新学習指導要領が、小・中学校で順次実施され、高校は最後の移行の時期にあり数多くの問題点や新たな課題等も提起された。

以下、本県における各部会の主な活動状況等と本年度本県で開催した第32回九州地区学校体育研究発表大会について紹介したい。

1. 各部会の活動状況

(1) 小学校部会

- ア 夏季研修会の実施（研究発表、講演等）
- イ 水泳・陸上記録会の実施及び記録の集計
- ウ 体操発表会の実施
- エ 第32回九州地区学校体育研究発表大会への積極的な協力・支援
- オ 第32回全国学校体育研究発表大会への参加者派遣
- カ 研究誌「小学校体育のあゆみ」27号の編集及び発行

(2) 中学校部会

- ア 実技講習会の実施
- イ 第32回九州地区学校体育研究発表大会への

参加者はそれぞれ学習した内容を編集部に提出し、報告書を作成し、会員にも紹介している。

もりたひとし 1935年鹿児島県生まれ。
鹿児島大学（西洋史）卒。県立宮之城高、大島高、国分高、玉龍高。県教育委員会学校教育課指導主事、総務課主査、文化課主幹、社会教育課長を経て、現在県立鹿児島工業高等学校長、県高等学校長協会工業部会長。

積極的な協力・支援

ウ 第32回全国学校体育研究発表大会への参加者派遣

エ 運動部活動における調査研究（平成2年度は手引発刊）

(3) 高等学校部会

ア 高等学校保健体育担当者研修会の実施

イ 地区別体育実技研究会の実施

ウ 地区別保健体育研究会の実施

エ 第32回九州地区学校体育研究発表大会への積極的な協力・支援

オ 第32回全国学校体育研究発表大会への参加者派遣

(4) 特殊教育学校部会

ア 特殊教育諸学校保健体育担当者研修会実施

イ 第32回九州地区学校体育研究発表大会への積極的な協力・支援

ウ 第32回全国学校体育研究発表大会への参加者派遣

2. 第32回九州地区学校体育研究発表大会について（報告）

(1) 期 日 平成5年11月18日（木）・19日（金）

(2) 会 場 鹿児島県文化センター、他

(3) 参加者 787人（九州各県396人 県内391人）

(4) 内 容 （1日目）
午前 開会行事、公開演技、講演
午後 部会別研究発表・研究協議
（2日目）
公開授業（小2 中1 高1 特1）・研究協議

(5) 今大会の特徴

特殊教育諸学校部会が初めて参加した。

3. 本年度の活動を振り返って

8年に1回の輪番で開催する九州地区学校体育研

究発表大会は、県内外各関係者の御指導・御協力により、多くの成果を挙げ無事終了することができた。

この大会を通じて、小・中・高・特殊教育諸学校部

会が連携をとり運営や研究実践に取り組めたことは、

今後の本県学校体育の充実・発展に大きく寄与するものとなろう。

Network

第32回全国学校体育研究大会（山梨大会）を終えて

研究主題「21世紀を心豊かに、たくましく生きる幼児児童生徒を育成する学校体育の在り方」



山梨県実行委員会会長

山梨県立機山工業高等学校長
望 月 紫 郎

第32回全国学校体育研究大会山梨大会は平成5年11月11日・12日の両日、甲府市を中心に県下二市三町において、幼・小・中・高・特殊教育諸学校の10分科会場に全国から2100余名の学校体育関係者をお迎えして盛大に開催されました。心から感謝申し上げます。

本大会を開催するにあたり、文部省をはじめ、日本学校体育研究連合会、山梨県、山梨県教育委員会、甲府市、韮崎市、竜王町、櫛形町、勝沼町各教育委員会の絶大な御支援と御指導を賜りましたことに対し厚く感謝を申し上げます。

本大会の山梨開催が決定されました、平成3年9月以降、各方面の御指導を仰ぎながら本県学校体育関係者の力を結集し、実行委員会を組織して鋭意準備を進めてまいりました。その過程には多くの困難な問題もありましたが、事務局はじめ関係者の献身的努力により、盛会のうちに無事大会を終了することができました。

近年、幼児、児童、生徒をとりまく社会環境は、著しく変容しており、運動不足や遊びの形態の様変わりなどから、新たな体力低下問題を生み出しております。

一方、高度な科学技術の進展は、経済成長をもたらし、自由時間の増大など生活の豊かさを生み、多くの人々が余暇としてスポーツを楽しむことができる時代となりました。しかし生活の利便性は必然的に運動不足を生みだし、それに起因する健康の危機も生じており、より豊かな人生を送るためには、意図的に体育やスポーツを生活の中に組みこんでいく

各部会の活動についても、一層の工夫・改善を図り活動内容を充実していくとともに、本県体育連合会としても、21世紀を担う児童生徒を育成するため、その役割を充分に果たせるよう努力していきたい。

もちづきしろ 1933年山梨県生まれ。
山梨大卒、甲府工高、塩山高教頭、山梨県教育委員会主幹を経て、現在、県立機山工業高校長、山梨県学校体育研究連合会会長、山梨県高等学校保健体育研究会会長。

が必要であります。

このような社会的背景の中で学校体育を考えると、幼児、児童、生徒がそれぞれの発達段階に応じて自己の健康や体力に関心をもち、生涯にわたって豊かな生活を送ることができる、資質や能力をいかにして培っていくかが大きな課題となります。今こそ、学校体育が生涯学習に果たす役割の重要性を痛感するところであります。

学習指導要領におきましても、生涯体育・スポーツの観点から発達段階に応じて「計画的に運動をする習慣を育てる」とこと「健康増進と体力向上を図る」ことが示されております。生涯にわたって積極的に運動やスポーツを生活のなかに取り入れることができる、資質や能力を培うためには、発達段階や個人に応じた体育学習の構築が指導者に要求され、期待されております。

本大会では、学習指導要領の趣旨をふまえ研究主題を設定し、発達段階と個に応じた指導の在り方を求めて研究を深めてまいりましたが、時代の要請にそった時宜を得たものでありました。

文部省教科調査官池田延行先生には、「新しい学力観に立った体育指導の在り方」について示唆に富んだ解説をしていただきました。シンポジウムでは日本女子体育大学体育学部長島喜八先生に司会をしていただき、東京学芸大学教授永島惇正先生、東京都教育委員会体育健康指導課長高田日呂美先生、横浜市教育委員会教育センター所長太田昇先生、千葉市立坂目小学校教諭渡辺妙子先生の諸先生方に豊かな識見と経験の中から生涯体育・スポーツを目指す

体育授業の方向性について御指導いただきました。更に10分科会で適切な御指導と御助言をいただきました諸先生方に心から厚くお礼申し上げます。

山梨県学校体育研究連合会は、研究主題を中心に各部会毎にテーマを設定して研究を進め、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特殊教育諸学校の発達段階と個に応じた指導の在り方を追求してまいりました。公開演技も大会の主旨に沿って内容を工夫いたしました。まだまだ研究は緒についたばかりであります。御指導をいただきました諸先生方と全国



石川県学校体育研究会
会長 小 藤 典 行

全国大会を前にして

から御参加をいただきました多くの関係者の皆様のご熱心な研究協議を心して、更に研究を推進してまいり所存であります。

結びになりましたが、大会運営の細部にわたってご教示を賜りました、前年開催静岡県実行委員会に対し心から厚くお礼申し上げます。

終りに、全国各地から御参加をいただきました多数の学校体育関係者に山梨県実行委員会を代表して心より感謝申し上げますとともに、第33回石川大会の御成功を心から祈念いたします。

こふじのりゆき 昭和13年石川県生まれ。金沢市公立小学校に教諭として23年間勤務の後、石川県教育委員会体育課指導主事を経て、現在金沢市立浅野川小学校長。石川県学校体育研究会会長。第33回全国学校体育研究大会石川県実行委員会会長。

まず、幼稚園からすべての校種を含めた、石川県学校体育研究連絡協議会の設立である。この場合は、石川県教育委員会体育課が水野指導主事を中心にして、うまくまとめてくれた。各団体も協力的で、国体で、競技スポーツは一応の目的を達成したから、こんどは、学校体育の番であるということで、順調に運ぶことができた。

これが大変である。

全国の体育の先生方が、北陸の石川へ来てくれるだろうか。これまで、みてきた先催県のような立派な大会ができるのか。お金もたくさんかかるのに、小さな石川県で国体の終わった後、余裕があるのか、授業内容は他県に劣っていないだろうか、あえて会場を引き受けてくれる学校はあるだろうか、心配な要素が多い中で、今となっては、やるしかないということ、覚悟を決めることにした。

はじめに、大会の研究主題を設定した。「一人一人が、運動の楽しさを味わい、豊かな心とすこやかな身体を育てる生涯スポーツをめざした学校体育のあり方」というように学習指導要領の趣旨をふまえて誰もが研究しやすいものとした。

次に、期日、日程について決め、特別講演の講師は、みんなが知っている体育人をお願いすることにした。

今、文部省、日本学校体育研究連合会、山梨県実行委員会のご指導を受け、石川県が恥をかかないよう、何とか大会を成功させたいと努力しています。

全国の体育先生方の協力を心からお願いします。

財団法人 日本学校体育研究連合会の沿革

本連合会設立に至る経緯は、昭和21年12月 日本体育指導者連盟が設立され（会長 大谷 武一氏）、昭和25年2月23日 財団法人（基本金 30万円）となる。降って、昭和37年10月 財団法人 日本学校体育研究連合会（学体連と略称）と改称、今日に至っている。

名称変更の理由は、この財団法人が、日本全国の学校体育の研究成果の交流と山積する体育問題に対する研究を促進するため、より適切な組織を確立し、もって学校体育の飛躍的發展を期する必要に迫られていたからである。

その目的には、(1) 学校体育の研究調査 (2) 学校体育に関する研究 (3) 指導者の資質の向上 (4) 学校体育研究団体の連絡提携 (5) その他、学校体

財団法人日本学校体育研究連合会設立の趣意

財団法人日本体育指導者連盟（昭和25年2月23日認可設立代表者今村嘉雄、会長大谷武一）が改組され財団法人日本学校体育連合会（以下学体連という。）の結成が決議されたのは昭和37年3月10日同連盟評議員会であった。当時の財団法人日本体育指導者連盟（以下日体指連という。）は、会長東俊郎、副会長野口源三郎、栗本義彦、理事長鈴木正三で、次のような経過で学体連を設立した。(1)昭和36年8月11日評議員会、理事会の要請と関係各方面からの指導により、文部省、都庁、日体指連の三者で改組に関する懇談会を開催（於岸体）(2)同年8月14日文部省、日体指連と改組について懇談（於文部省）(3)同年8月19日、前2回の懇談会の結果をふまえて改組原案作成小委員会開催（於学習院）(4)同年8月29日、8月19日開催の小委員会で作成した原案を審議するため前掲の三者会談を行なう（於体協）そこで各教科の研究会の実情や各都道府県研究会の実態調査を行なうことを決める。(5)同年8月31日文部省で各教科研究会の実情を調査する。(6)同年9月1日日体指連は各都道府県に実態調査を依頼する。(7)同年9月18日全国の実態にもとづき原案作成小委員会は再度改組原案を作成する（於学習院）。(8)同年9月19日文部省関係者と小委員会作成の原案について懇談する。(9)同年9月21日第3回三者会談を体協において開催し改組原案を説明する。その結果小中高校校長会、学校体育連盟、その他各関係団体に原案を提示し協力方を依頼することとする。(10)同年10月9日秋田団体に於ける主管課長会議の折、文部省関係官から改組の事情を説明してもらう。(11)同年11月、文部省主催の体育関係ブロック課長会議において、文部省関係

育の振興に寄与すること…などがあげられている。

さらに、昭和50年頃から「学体連」は、その活動実績と性格に若干の修正が加えられ、次のような事業を中心にすえるようになった。

① 全国学校体育研究大会の開催（昭和51年 滋賀県） ② 体育優良校の表彰（昭和26年より）、功労者の表彰（昭和46年より） ③ 講習会の開催 ④ 機関紙「学校体育研究」の発行（年2回・無償） ⑤ 会報の発行（年2回・無償）などである。このうち、特に、加盟団体の体育研究活動の助成や指導者の養成に努力がなされ、今日に至っている。

なお、「学体連」の生い立ちについては、元学体連副会長の鈴木正三氏が、会報第9号で、発足当時の状況を以下のように紹介している。

官を通じて改組の骨子を説明して協力方を依頼する。(12)同年12月1日全国体育主管課長会議に原案の提出方協力を求める。(13)昭和37年3月2日体育主管課長会議に文部省を通じて意見聴取協力を依頼する。(14)同年3月10日日体指連評議員会を開催、原案を提出し承認される。この経過でも分るように文部省（体育課長西田剛）の指導がいかにかきかかったかがい知ることができる。

ついで日体指連では世話人として全国教育長協議会会長小尾鼎雄、全国保健体育主管課長協議会代表坂周助、全国高等学校校長会会長岩下富蔵、全国高等学校体育連盟会長岩下富蔵、全日本中学校校長会会長沢畑泰二、全国中学校体育連盟会長沢畑泰二、全国小学校校長会会長鈴木虎秋、教育大学体育学部部長鶴岡英吉、全国女子体育連盟会長戸倉ハル、などの協力を得て、設立趣意を作成し広く学校体育関係者におくり、趣旨に賛同する各都道府県学校体育研究組織の確立と学体連への加盟をよびかけた。

その趣意は次の通りである。

「次代を担う青少年の健康と体力を向上させ、心身ともに健全な育成を図ることは、各個人の幸福はもちろん国家社会の発展のうえからも極めて重大な課題であります。

われわれ体育関係者はこの課題解決に貢献する体育の使命の重要性を認識し体育の発展に鋭意努力して参りました。現在オリンピック東京大会を目前に控えた全国民のスポーツに対する関心が高まっており、また学校体育においては小中高等学校の学習指導要領が改訂されるなど、体育スポーツの充実発展をはかるべき好機であります。

最近学校教育における他教科の研究活動は全国的組織の

もとにその研究が活発化しつつありますが、学校体育は研究すべき領域や内容が非常に多くあるにもかかわらずその全国の研究態勢は確立されず個人や小範囲の研究組織のみでその実績はまことに遅々たるもののように考えられます。

よってこの際各地の研究の成果の交流と未解決の問題に対する研究促進のための全国的組織を確立して学校体育の飛躍的發展を期する必要があります。かねてから日体指連を改組して前述の趣旨が達成できるよう全国各方面からの要望がありました。昭和37年3月10日同連盟評議員会でこの連盟を発展的に解消して真に全国学校体育関係者の要望に答える法人の結成が決議され、万場一致で規約も承認されたのであります……(規約および設立の経過を添付して広く関係各方面に配布した。)

このようにして昭和37年10月財団法人日本学校体育研究連合会の設立が認可され同年11月8日津田沼小学校において第1回全国学校体育研究大会(参加者約3,000名)が記念行事として開催されるとともに同日総会を開催して学体連の設立を祝ったのである。このとき東俊郎会長はつぎのようなあいさつをおこない決意が披瀝された。すなわち、

「次代を担う青少年の健康と体力を向上させ、心身ともに健全な育成を図る学校体育の指導に日夜挺身されておられる全国の皆さんの参集のもとに、財団法人日本学校体育研究連合会発足後はじめての総会を開催できますことはまことに喜びにたえません。

本連合会は昭和21年12月に誕生した日本体育指導者連盟(昭和25年2月23日法人認可)を全国各方面の御要望によって改組し、各都道府県の学校体育研究団体の連合体として、本年10月再出発したものであります。私はこの改組にあたって協力下さった関係の皆さんに対し心から感謝申し上げます。

本日皆さまとともにみごとな研究授業や研究発表の状況を拝見いたしました。現在全国各地域において学校体育の研究活動が漸次活発化しつつありますとき、本連合会は全国各地の研究成果の交流はもちろん、学校体育の充実、改善に関する調査の実施研究会、講習会等の開催、優良校の表彰および広く海外の学校体育研究団体との運けい等を事業内容としわが国学校体育の中核団体として運営したいと考えております。

以下、略。

賛助会員の募集(お願いと申込み方法)

I 趣意書

ご承知のように、今日の日本経済はバブル崩壊後の後遺症が依然として強く、景気は悪化し続け倒産に追込まれた企業も多く、また、企業のみならず、日本全体が進むべき方向を模索している現状も問われ、問題は深刻であります。というのは、これまでわが国の経済社会を支えてきた仕組み(キャッチアップ型)を日本自らの創造性による新しい仕組み(パイオニア型)へと構造改革していかなければならなくなったからです。新しい構造改革には、かなりの時間を要することと思います。つまり、今日の不況脱出は容易ならざるものがあり、この不況脱出には何年かかるかといわれています。

本連合会もこの影響を受け、従来、期待していた寄附金が容易に入手できない見通しが出てまいりました。しかしながら、私どもは、全国の学校体育の発展と児童・生徒の体力向上のために、本会の目的に添って、このようなときにこそ、一層事業の充実・発展を期したい所存であります。

つきましては、平成6年から賛助会員による収入(本連合会・寄付行為第6条—昭和53年—昭和55年頃もありました)によって、不足する寄附金を補いたいと思いますので、何卒、本連合会の趣旨に賛

同して頂き、賛助会員になって頂きますよう、ここにお願ひ申し上げる次第であります。

賛助会員には、次の4種類があります。

1. 個人の部

- (1) 一般賛助会員……年度会費 5千円
- (2) 終身賛助会員……一時会費 5万円

2. 団体の部

- (1) 普通賛助会員……年度会費 一口(2万円)以上
- (2) 特別賛助会員……年度会費10万円と多額の寄附金

II 申込み方法

1. お申込み頂く方は、なるべく手数料がかからず、また、事務処理に簡便な郵便振込をご使用くださるようお願いいたします。

① 本年度第2期の振込期日締切は、10月31日(月)といたします。

② 郵便振替払込金受入票の裏面(通信欄)に(1)一般賛助会員(年度会費・5千円) (2)終身賛助会員(一時会費 5万円)の区別を確認のためにご記入頂ければ、幸甚に存じます。

2. 学体連事務局(加入者名)の郵便振替口座番

号は00130-2-563814です。

III 賛助会費の使途について

会員の方々から頂いた、この貴重な浄財は、本連合会の主要な行事である全国学校体育研究大会(昭

分担金の「値上げ」についての報告

分担金の値上げ決定額については、平成5年12月末、各加盟団体の会長宛にお知らせし、その後、本部と加盟団体の会長との間で連絡がとられて参りました。

ここでは、今日までの経緯について、広く加盟団体の各位にお知らせいたします。

加盟分担金は、昭和55年以降今日まで据置きにされておりました。この間、物価指数の上昇(約4倍)などにより各方面から増額の必要性が求められていました。

本部では、これについて逐年、審議したして参りました。その結果、3～4年かけて理事・評議員会や代表者会議に計り、その都度、資料を提供して加盟団体の意向を伺いながら納得して頂ける妥当な案をと考えて、検討・審議してきました。幸い、第32回全国学校保健体育研究大会(山梨大会)における理事・評議員会(平成5年11月10日、午後2時～4時)において「本草案」と「大阪体育研案」が出され、両者の案について審議をお願いした結果、後者の「大阪体育研案」が採択され、「値上げ」することが決定されました。後者の案には、1案・2案・3案の3つの方式がありましたが、当日はおおよそ、2案・3案の賛成者が同率でした。したがって、本部としましては、2案・3案のうち「値上げ率」の高い方を採択させて頂きたいと考え、そのように値上げ表を作成し、各加盟団体にお知らせいたしましたが、平成6年度第1回理事・評議員会において、「どちらかにはっきりと決定すべきだ」との提案があり、3案に決定いたしました(別表参照)。分担金の値上げは長年の懸案だっただけに本部役員一同、深謝いたしているところであります。と同時に、この貴重なお金を有効適切に使用させて頂く所存であります。

まだ、数県の加盟団体とは連絡が不充分なところもありますが、本部としましては、それぞれの地区の事情をもよく思料し双方で善処いたして参りたい

和37年度 第1回大会より平成6年度は第33回大会、現在、平成9年度 第36回大会の開催県まで決定)や研究大会当日の優良校(約130校)及び功労者(約130人)の表彰、加盟団体の体育研究活動や指導者養成の助成などに有効に使用させて頂きます。

と考えています。何卒、よろしくお願い申し上げます。

因に、加盟団体の分担金決定額一覧表は、「別表」の通りです。平成6年度以降、加盟団体は、この決定額でお願いいたします。

なお、従来の分担金総額は122万円でしたが、今回値上げによる分担金総額は、212.8万円となり、値上率1.74倍となりました。

(別表)

分担金値上げ表

(単位 千円)

道府県	番号	現 行	3 案	道府県	番号	現 行	3 案
北海道	1	40	90	滋 賀	2 5	20	32
青 森	2	20	40	京 都	2 6	20	42
岩 手	3	20	42	大 阪	2 7	60	76
宮 城	4	20	44	兵 庫	2 8	40	68
秋 田	5	20	34	奈 良	2 9	20	34
山 形	6	20	36	和歌山	3 0	20	36
福 島	7	20	48	鳥 取	3 1	20	30
茨 城	8	20	50	島 根	3 2	20	34
栃 木	9	20	40	岡 山	3 3	20	44
群 馬	1 0	20	40	広 島	3 4	20	50
埼 玉	1 1	40	64	山 口	3 5	20	40
千 葉	1 2	40	62	徳 島	3 6	20	36
東 京	1 3	60	104	香 川	3 7	20	32
神奈川	1 4	60	70	愛 媛	3 8	20	38
山 梨	1 5	20	30	高 知	3 9	20	34
長 野	1 6	20	38	福 岡	4 0	40	60
新 潟	1 7	20	46	佐 賀	4 1	20	30
富 山	1 8	20	32	長 崎	4 2	20	40
石 川	1 9	20	32	熊 本	4 3	20	42
福 井	2 0	20	32	大 分	4 4	20	40
岐 阜	2 1	20	40	宮 崎	4 5	20	34
静 岡	2 2	40	52	鹿児島	4 6	20	48
愛 知	2 3	60	64	沖 縄	4 7	20	36
三 重	2 4	20	42	総 合 計	1,220	2,128	

Gakutairen

事務局だより

1. 平成5年度常務理事会の審議内容



常務理事 神田 俊 郎

平成5年度・常務理事会日程と審議内容の概要を示すと次の通りである。

第1回 4月10日(土)11:30~13:30於学体連事務局

- (1) 平成4年会計事務整理の進行状況、決算 今泉。報告と5年度予算案は5月常務理事会に金森常務より提案予定。
- (2) 平成4年度事業報告書審議(一部修正)承認。神田。
- (3) 平成5年度事業計画案審議(一部修正)承認。神田。
- (4) 中学校体育指導書(仮称)出版について 浅田
 - 1) ○予算300万以内。ページ数200ページ 椎木
 - 内容:理論編、実践編、参考資料で編集する。
 - 発行部数:4000部 ○現行執筆料1枚1500円
 - 頒布価格 1900円(送料別)
 - 2) この取り扱いについて渋谷税務署の指導助言を得ること。岡野常務が担当する。
- (5) パソコン導入について(事務局用) 大石

パナソニックとし近日中に納入予定。
- (6) 学体連に対する「大阪学体研協議会」の 浅田

意見書に対する解答文案審議。
- (7) 平成5年度理事・評議員の選出依頼について岡野
 - 1) 平成5年度各都道府県の会長・事務局及び学体連の理事・評議員の調査を分けて依頼する。
- (8) 平成5年度、優良校・功労者の推薦について。岡野
 - 割当て人数の変動(大阪4→5、広島4→3)
 - 表彰要項前年通り。
- (9) 研修会・講習会について
 - 1) 幼稚園:5月常務理事会へ要項提案 菊地
 - 2) 小学校:別紙要項案。7領域で実施。野口
 - 3) 中・高:別紙要項案により実施。松田
- (10) 研究助成金申請書記入項目一部変更について 岡野
- (11) 平成5年度、理事・評議員会の日程について 浅田

かんだとしろう 1930年福岡生。福岡第一師範本科卒、福岡県、東京都立中学校教諭・教頭・校長歴任。三鷹市立第一中学校長、都中学校保健体育研究会会長、中体連副会長後、退職。現在 三鷹市スポーツ振興審議会会長。

1) 5月22日(土)13:00~ 於研修館会議室

第2回 5月6日(土)10:10~12:20於学体連事務局

- (1) 平成4年度 決算書(案) 審議(承認) 金森
- (2) 平成5年度 予算(案) 審議(承認) 金森
 - 1) 基本財産の件について
 - ①MFF40万7千円の預金を、今年度決算で基本財産に組み入れる。
 - 2) 平成5年度予算歳入について
 - ①賛助会費1100万で組む。前年より100万円増加、その他は前年と変わりなし。
- (3) 中学校教科体育指導書の発行、前回承認案 浅田

一部修正について 椎木

 - 1) ページ数220 頁内にする。(承認)
- (4) 平成5年度理事・評議員の選出について 岡野
 - 1) 前回承認の報告依頼書を道府県の事務局へ発送済み
 - 2) 報告のないところは、電話で確認していく。
- (5) 平成5年度、優良校・功労者の依頼状況 岡野
 - 1) 東京都以外の他府県には発送済み。
- (6) 研修会・講習会の募集準備状況(担当理事)
 - 1) 各学校種別とも予定通り準備進行中。
- (7) 平成5年度第1回理事・評議員会の準備 浅田

状況。

 - 1) 議事に10分担当金について資料を追加する。外は予定通り準備進行中。

第3回 6月19日(土)10:00~12:00於学体連事務局

- (1) 事務・会計処理方法について 浅田
 - 1) 今後、ワープロによる会計の分類項目に合わせ処理する。
- (2) 文部省への提出書類について
 - 1) 準備完了近日中に文部省へ提出予定。
- (3) 「分担金の見直し(案)」に対する各県の 浅田

意向打診のための書類送付について

- 1) 表紙(学体連発512号)とし、資料(1)(本部案)と資料(2)(大阪案)を、各理事、評議員に送り各県段階の意向を打診し、山梨大会で審議決定する。
- (4) 地区別理事・評議員の定数移動について 岡野
 - 1) (理事) (評議員)
 - 関東・甲信越地区 5名~4名 12名~11名
 - 東北・北陸地区 2名~3名 9名~10名
- (5) 平成5年度理事・評議員の選出状況 岡野
 - 1) 地区理事(山口県)予定が報告されれば完了。
- (6) 優良校、功労者の中央審査委員会について 岡野

て

 - 1) 7月28日(水)14:00

於青少年センター第一会議室
 - 2) 審査委員:常務理事と関東近県、山梨、石川の理事評議員に委託の予定。

第4回 7月20日(火)9:40~16:30於学体連事務局

- (1) 事務処理と諸書類の保管整理について 浅田
 - 1) 諸書類を誰が見てもわかるように、分類整理し、事務処理の効率化を図る。受領文書簿、発送文書簿を別け整理する。
- (2) 中央審査会の準備状況と優良校・功労者 岡野

数について。

 - 1) 会場・委員委嘱・審査資料準備完了。
 - 2) 審査委員は会長以下21名、6ブロック3名割当てで審査する予定。
 - 3) 優良校 146校 功労者 159名
 - 4) 特別申請の都・県(功労者)東京(2名) 静岡(2名)山梨(1名)を本年度に限って認める。
- (3) 研究集録の価格と印刷・校正について
 - 1) 価格 4500円昨年通り。校正は9月15日過ぎ常務理事会全員分担で行う。
- (4) その他
 - 1) 幼稚園、小学校実技研修会へ、山梨県公開授業発表者5名参加。
 - 2) 第32回 全国学校体育研究大会要項配布について

第5回 9月7日(火)13:30~15:15於学体連事務局

- (1) 第32回全国大会の準備について
 - 1) 表彰状 8月10日印刷完了納品 功労者180校、優良校170校。簡は業者から山梨県事務局へ送る。

- 2) 記念品・楯とメダルに贈呈ミリオン株式会社と入れるように手配し、国光へ発注する。
- (2) 山梨県事務局に連絡確認事項。 岡野
 - 1) 研究資料集:取り扱い場所と方法(係山本)
 - 2) 中学校体育指導書頒布場所の確認(1台のみ)
 - 3) 受賞代表者・謝辞依頼者の確認連絡。
 - 功労者 島根県 高橋邦好校長
 - 優良校 静岡県立沼津東高等学校・須田慎夫校長
 - 謝 辞 山梨県アケボノ養護・増村英治校長
 - 4) 大会前の本部との打合せ(準備状況の確認)
 - 大石会長、岡野常務が出席する。
- (3) その他
 - 1) 第40回東京都高等学校舞踊研究発表大会に対する助成金の申請について 3万円助成認可。

第6回 10月12日(火)12:30~14:15於学体連事務局

- (1) 第32回全国山梨大会常務理事役割分担。
 - 1) 理事・評議員会役割分担
 - 受付 神田、野口、内藤、今泉
 - 会場設営 岡野、椎木、菊地
 - 記録 松田、椎木、野口(テーパー持参)
 - 2) 表彰式関係(開会式:常務理事は壇上)
 - 関係物品の点検(表彰状・楯・メダル)岡野・神田
 - 呼名 優良校(椎木)功労者(野口)
- 来賓紹介(金森)
- 議長団(浅田・岡野・神田・金森)
- 分科会会場参観記のまとめ 菊地・内藤
- 研究集録関係(岡野・今泉・山本)
- 「中学校体育指導書」頒布(椎木・大羽・石塚)
- 7) 分科会場視察割当
 - (大石:全体視察)(浅田:幼・中)(岡野:小中)(神田:中高)(金森:高)(野口:小中)(椎木:中(午前))(松田:高:中)(菊地:幼小)
- (2) 平成2年度第2回理事・評議員会について 浅田
 - 1) 報告事項
 - ①平成5年度第1回理事・評議員会の報告 資料1
 - ②平成5年度役員・理事・評議員一覧表 資料3
 - ③中学校体育指導書「選択制授業の計画と展開」の刊行と申し込み状況 資料4
 - 2) 審議事項
 - ①平成6年度以降の全国大会開催地について 資料5
 - 平成10年度中国ブロックの話し合いで開催

県を決定してもらう。

②分担金の見直しについて 資料6

③「学体研」の組織強化について 資料7

④学校体育の諸問題(ブロック毎の意見を分析・検討)

⑤研修会・講習会(学校種別に計画を説明する。)

⑥会報発行について

ブロックの研究活動を掲載する。北と南から。

⑦次期開催県の準備状況について報告(石川県)

○開催日 平成6年10月20日(木)21(金)

第7回 平成5年11月6日(土)10:40~12:00於学体連事務局

(1) 理事・評議員の定数移動に伴い、理事定数を1名増員する。それに伴い定款の改正をする。

(2) 表彰者・表彰校への記念品と配布の方法について

1) 来年度から楯・メダルをやめ、永く使用できる実用的な記念品に切替える。

(3) その他

1) 分科会参観記録。12月中旬まで本部提出。

第8回 平成5年12月14日(火)14:00~13:35於学体連事務局

(1) 第32回全国大会の反省点について

1) 大会は全般的によく準備され、開会式、セレモニー、公演、シンポジウムと流れはスムーズで大変よかった。

2) 大会事務局への本部からの連絡は2ヶ月前ぐらいからやるとよい。

(2) 理事・評議員回の議事内容・結果の処理について

1) 分担金の値上げについて(別紙審議)

①来年度から値上げの方向で、各都道府県会長の承認を得る。折衝努力をする。

2) 寄付行為定款の改正について

①全国大会時の理事・評議員会での資料7を検討し、3部9ブロックに編成替える。

○東部 北海道、東北、関東ブロック

○中部 東海、北陸、近畿ブロック

○西部 中国、四国、九州ブロック

なお、東海ブロックは、岐阜、静岡、愛知、三重の4県。北陸ブロックは長野、新潟、富山、石川、福井5県と分かりやすく、見やすい表にする。

(3) 会報31号の編集について

1) ○原稿締切1月31日 ○発行予定3月20日

○ページ数約30頁。

2) 内容

①○巻頭言 ○93年度学校体育の課題 ○第32

回山梨大会理事・評議員会議事録 ○分科会

参観記 ○NET・WORK(北海道と鹿児島)

○山梨大会報告 ○次期全国大会を迎えて

(石川県会長) ○事務局だより ○平成5

年度理事・評議員一覧表 ○常務理事役割分

担表。

第9回 平成6年1月24日(月)14:00~15:00於学体連事務局

(1) 経費節約のための緊急対策案について 浅田

1) 別紙提案資料により審議

2) 講習会、研修会の実施計画について

①参加費で極力賄うようにする。

②講師謝礼金は、一コマ3万円以内(交通費を含む)、できれば幼・小・中高毎に格差をつけない。

3) 来年度の収入見通し

① 日本教育シューズ 300万円。② ミズノスポーツ 100万円。③ 分担金 200万余収入が減少するので、緊縮予算で組まなければならない。

4) 賛助会員の勧誘について

○賛助会員：現在費用は頂戴していない。どこにどういう形で賛助会員を勧誘するか、会員を募るには学体連がどういう団体か、どういう趣旨のもとに会員になれるのか趣意書が必要である。(別紙の趣意書)検討審議。

①個人の部：一般賛助会員 年度会費 5千円

終身賛助会員 一時会費 5万円

②団体の部：普通賛助会員 1口2万円以上

特別賛助会員 年度会費20万と別に寄付

(2) 賛助会員のリストアップについて 浅田

1) 特別賛助会員と賛助会員の名簿を個人別、団体別に作成する。

2) 賛助会員の候補者、団体があれば岡野常務へ連絡

(3) 会報31号の刊行について 浅田

1) 4月下旬以降に発行を変更し、できれば、第1回全国・理事評議員会頃に発行したい。

2) 賛助会員についてのお願い(趣意書)等を加える。

(4) 助成金の申請について 審議・承認 浅田

第10回 平成6年2月24日(木)14:00~15:00於学体連事務局

(1) 事務処理の合理化・簡素化について 浅田

1) 連絡は、ファックスと電話を活用すること。

(2) 賛助会員のリストアップと会員募集及び 浅田

その方法

1) 平成元年度から5年度までの体育功労者(600余名)を勧誘する。

2) 全国大会紀要の広告掲載会社にも特別賛助会員の勧誘文書を送る。

(3) 平成5年度の会計監査の準備について 金森

第11回 平成6年3月22日(木)3:00~5:00於学体連事務局

(1) 業務内容ごとの処理の促進方法について 浅田

1) 主要な業務内容の年間計画を作成する。

①賛助会員の募集計画(通知・日程・内容)について

②全国理事・評議員会の通知(日程・議題：その準備、春・秋について)

③文部大臣へ提出書類づくり(必要な資料の収集と内容の検討について)

2. 平成6年度 講習会・研修会及び全国大会日程



常務理事 岡野 伊与次

(1) 第25回 全国学校体育実技研修会

◇幼稚園・保育園の部

・日程・場所

平成6年7月28日(木)・29日(金)

東京都台東区立竹町幼稚園 体育館

・趣 旨

幼児のからだを充分に動かし、進んで楽しく運動式な遊びに取り組み、心身共に健康な幼児を育てるための「心の健康の問題」「幼児の発達と遊びや運動」のあり方

・テーマ

「ひとり一人を生かす楽しい遊びの指導」

・講義と実技

◇小学校の部

・日程・場所

平成6年8月1日(月)・2日(火)

東京都千代田区立麹町小学校 体育館及び校庭

・趣 旨

心身の発達の特性との関連から運動の特性を明確にし、児童がめあてをもって主体的に取り組む体育学習の在り方

④優良校、功労者の推薦依頼(日程、書類の発送)、選考委員会の日程等。

⑤講習会の日程、プログラムの作成。

⑥分担金値上げの事務処理状況と書類上の確認
(2) 会報31号の発行日の変更と内容の追加に 浅田 について

(3) 平成5年度決算報告書作成について 金森

同上 事業報告書作成について 神田

(4) 平成6年度予算報告書作成について 金森

同上 事業計画書の作成について 神田

(5) 平成5年度会計監査について 以上。金森

常務理事会は、紙面の都合で審議項目の報告になるが、毎月一回のペースで、改善に力点をおいて、理事長を中心に熱心に審議が行われてきたことを補足し報告とする。

おかのいよじ 1924年、茨城県生。

東京第一師範卒、都立小学校教諭、新宿区教育指導主事を経て、公立小学校校長、都小体研会長後、退職。現在、埼玉短期大講師その他、共著「新しい運動会のくふう」「あそびと運動」その他。

・テーマ

「自ら進んで運動に親しむ能力や態度を育てる体育学習」

(2) 第4回全国中学校・高等学校保健体育実技研修会

・日程・場所

平成6年7月8日(金)

文化女子大学附属杉並高等学校体育館

・テーマ

「ニュースポーツを通して運動の楽しさを味わう」

(3) 第33回 全国学校体育研究大会

・日程・場所

平成6年10月20日(木)・21日(金)

石川県厚生年金会館

・テーマ 「一人一人が運動の楽しさを味わい、豊かな心とすこやかな身体を育てる生涯スポーツをめざした学校体育のあり方」

(4) 第2回理事評議員会の開催

・日時 平成6年10月19日(水)2時~4時

・場所 石川県厚生年金会館

3. 平成6年度 事務連絡についてのお願い

事務局 今泉香代子・山本 久子

平成5年度は各県事務局のご協力をいただきまして、ご入金は全て郵便振込に切り替えることが出来ありがとうございました。事務の簡素化に役立ちました。本年も重ねてご協力の程お願いいたします。

- ① 毎年、県によっては事務局が移転する所もありますので、年度始めの書類は前事務局に書類を送付させて戴きます。該当する県は新・旧事務局のお取り次ぎ方ご配慮をお願い致します。新事務局が決まり次第速やかにご連絡ください。
- ② 『全国学校保健体育実践・研究資料集（優良校・功労者）』の申し込み・集金等の件につきましては、郵便振込でお願い致します。平成6年度石川県大会の通りの申し込みは9月15日を納入締切り（郵便振込用紙送付）といたしますので宜しくお願いいたします。
- ③ 各県よりの分担金納入の件につきましても郵便振込（振込用紙送付7月）でお願いいたします。県事務局の都合で銀行振込の場合には必ず県名を入れてお振込みください。

振込宛先

1. 富士銀行 青山支店
2. 預金種類 普通預金
3. 口座番号 1693162
4. 振込さき (助)日本学校体育研究連合会
会長 浅田 隆夫

- ④ 第24会全国学校体育研修会（幼稚園・保育園の部・小学校の部）申し込みの件につきましても郵便振込（振込用紙送付）でお願いいたします。

- ⑤ 賛助会費協賛ご入金のおりには下記の銀行口座
にお振り込みくださるようお願いいたします。

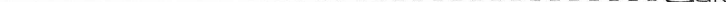
振込宛先

1. 富士銀行 青山支店
2. 預金種類 普通預金

4. 人事片片

大石三四郎前会長一名誉環境学博士（地球環境大学院）のところに最近、「米国地球環境大学大学院のライナス・ポーリング博士（ノーベル賞受賞者）から「『絶対平和への四段階』実現のための世界各国大学総長会議の開催と常設のため組織委員をご委嘱申し上げます」といった内容の委嘱状が届いたとか。本会の会長を辞退されても、また別のところで大石流のどんな神通力が発揮されるのか、「見ものだ」との噂しきり。

浅田隆夫理事長が、このたび（平成6年度第1回理事・評議員会）会長に推挙されました。ご本人は、金集めがニガ手中のニガ手、「近ごろは夜もロクロク眠れない」とか。女性にはことのほかやさしいご仁だけに、事務局の2人のOGがひときわ心配しているとか。女神の祈りが叶って奇様な特別賛助会員の現れることを祈るや切。



平成6年度上半期 個人の部

贊助會員一覽表

終身賛助会員 (一時会費 5万円)

長崎	六〇二一	山口英剛
福岡	六〇二二	山口堯治
愛媛	六〇一〇	京口和雄
徳島	六〇〇九	平尾隆信
	六〇〇八	松田智男
	六〇〇七	岡野伊与次
	六〇〇六	金森久
	六〇〇五	浅田隆夫
	六〇〇四	山村平
東京	六〇〇三	待井四菜男
群馬	六〇〇二	中村善治
福島	六〇〇一	坂本和夫

一般賛助会員 (年度会費 5 千円)

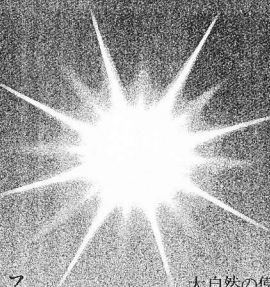
六〇二九	今泉	香代子	兵庫	六〇五七	石井	廣治	六〇八六	有馬	暢洋
六〇二八	関川	秀夫	六〇五六	池田	晴子	六〇八五	首藤	吉夫	
六〇二七	齋藤	光久	大阪	河井	久雄	六〇八四	友藤	正則	
六〇二六	島崎	善久	六〇五五	石野	淳	六〇八三	久米	克業	
六〇二五	橋本	秋武	六〇五四	野井	久雄	六〇八二	勝野	温	
六〇二四	大野	武次	京都	西村	昭建	六〇八一	野中	五郎	
六〇二三	森谷	武次	六〇五三	丹羽	昭夫	六〇八〇	森岡	幸雄	
六〇二二	塩原	正美	滋賀	池田	文男	六〇七九	山本	修平	
六〇二一	吉澤	勝美	六〇五一	藤田	文男	六〇七八	伊与田	穰	
六〇二〇	松永	清美	六〇五〇	稲垣	幸夫	六〇七七	久保田	公夫	
六〇一九	加藤	哲夫	六〇四九	福田	好夫	六〇七六	宇都宮	定吉	
六〇一八	紺野	幸夫	六〇四八	竹内	順夫	六〇七五	中	原忠	
六〇一七	阿野	幸夫	六〇四七	右高	久司	六〇七四	伊賀	好弘	
六〇一六	斎藤	久制	六〇四六	山本	幸男	六〇七三	伊賀	賀敏	
六〇一五	山崎	信次郎	静岡	浅野	晃	六〇七二	唐渡	敏明	
六〇一四	奥山	利夫	六〇四四	田中	登	六〇七一	浴井	武士	
六〇一三	栗原	清夫	六〇四三	中野	晃	六〇七〇	坊内	武士	
六〇一二	鈴木	養治	岐阜	宮下	官治	六〇六九	木下	惠亮	
六〇一一	佐藤	昭次郎	六〇四二	打越	伸二	六〇六八	山本	信幸	
六〇一〇	田村	宏	六〇四一	石高	寛	六〇六七	榎山	信幸	
六〇〇九	鈴木	誠	六〇四〇	古川	孝一	六〇六六	池田	通雄	
六〇〇八	崎崎	守男	六〇三九	金子	隆夫	六〇六五	和田	亨	
六〇〇七	国井	和男	六〇三八	和泉	誠彦	六〇六四	三浦	弘三	
六〇〇六	石井	孝治	六〇三七	坂田	正彦	六〇六三	勝部	嘉己	
六〇〇五	四戸	孝丸	六〇三六	貝谷	東吾	六〇六二	山下	照雄	
六〇〇四	足沢	孝至	新潟	小川	洋一	六〇六一	川中	照雄	
六〇〇三	内海	正敏	長野	雨宮	幹夫	六〇六〇	桑形	宗光	
六〇〇二	阿部	光熙	山梨	晶山	京子	六〇五九	谷口	啓次郎	
六〇〇一	遠藤	光忠	六〇三一	吉村	信義	六〇五八	井上	守	
六〇〇〇	北海道		六〇三〇	野口	修二	六〇五八	井上	守	

平成5年度 役員・理事・評議員一覧表

H5.6.19現在
(財)日本学校体育研究連合会
TEL:03-3465-3954 FX:03-3465-7464

担当職務	氏 名	現 職・職 名	電 話	担当職務	氏 名	現 職・職 名	電 話
会 長	大石三四郎	筑波大学名誉教授	自0480-65-7813	常務理事	松田 智明	都教育庁人事部長補佐	03-3212-5472
理 事 長	浅田 隆夫	目白学園女子教育研究所長	03-3952-5111	同	菊地 明子	川村学園女子大学助教授	自03-3803-6538
常務理事	岡野伊与次	元新宿区立戸塚小学校校長	自03-3419-0408	同	内藤 澄子	(私)江戸川区みなと幼稚園園長	03-3656-4764
同	神田 俊郎	前三鷹市立第一中学校校長	自0426-44-3458	監 事	鈴木 祐一	東京女子体育大学学長	0425-72-4131
同	金森 久	日本女子体育大・二階堂高校校長	03-3322-9151	同	深川 長郎	国士館大学文学部教授	03-5481-3233
同	野口 修二	豊島区立池袋第五小学校校長	03-3982-1215	同	田中 康雄	港区立白金小学校校長	03-3441-8895
同	椎木 秀蔵	豊島区立千早中学校校長	03-3956-8199	事務局	今泉香代子	学体連事務局職員	自03-3414-0791

No	都道府県名	理事氏名	現 職・職 名	電 話	評議員氏名	現 職・職 名	電 話
1	北海道	金井 孝	札幌市立大通小学校校長	011-251-0228	高辻 松美	北海道札幌市立福住小学校校長	011-854-1318
2	青 森	内海 正俊	青森県立八戸工業高等学校校長	0178-22-7348	玉置 重実	北海道札幌南陵高等学校教諭	011-591-2102
3	岩 手				花田 稔	青森県立青森工業高等学校教諭	0177-81-8111
4	宮 城				伊藤 章一	岩手大学教育学部教授	0196-23-5171
5	秋 田				石井 孝治	仙台電波工業高等専門学校教授	022-392-4761
6	山 形				長谷部 建	秋田市立八橋小学校校長	0189-62-6930
7	福 島				小関 文助	山形市立第五中学校校長	0236-22-0559
8	茨 城	町田 守司	茨城県水戸市立河和田小学校校長	0292-51-9540	渡辺太朗司	福島大学教育学部教授	0245-48-5151
9	栃 木				中村 昌平	茨城県教育庁保健体育課学校体育係長	0291-21-8111
10	群 馬				荒川 伸夫	栃木県立矢板東高等学校校長	0287-43-1243
11	埼 玉				高橋 毅	群馬県立太田女子高等学校校長	0276-22-6651
12	千 葉	梶原 義夫	千葉県立松戸馬橋高等学校校長	0473-91-4361	富野 達也	埼玉県立浦和高等学校校長	048-886-3000
13	東 京	鈴木 一正	東京都立魏馬高等学校校長	03-3990-8643	関川 秀夫	千葉県酒々井町立酒々井中学校校長	043-496-1040
14	神 奈 川				石黒 健	東京都千代田区立昌平小学校校長	03-3251-0448
15	山 梨	望月 紫郎	山梨県立機山工業高等学校校長	0552-28-7281	小池 国雄	東京都杉並区立東田中学校校長	03-3313-1461
16	長 野	谷道 七郎	長野県飯田市立鼎中学校校長	0265-22-0173	川村 好秋	東京都立東高等学校校長	03-3844-7176
17	新 潟				嶋崎 弘明	神奈川県厚木市立依知小学校校長	0462-45-4611
18	富 山				酒井 利雄	神奈川県川崎市立南加瀬中学校校長	044-588-6427
19	石 川	小藤 典行	石川県金沢市立浅野川小学校校長	0762-38-2034	早川 省三	山梨県甲府市立東中学校校長	0552-33-1378
20	福 井				小川 洋一	長野県木曽郡福島町立福島小学校校長	0264-22-2014
21	岐 阜				渡辺 建夫	新潟市立沼垂高等学校校長	025-247-1236
22	静 岡				梁瀬 一珠	富山県立高岡商業高等学校校長	0766-21-4319
23	愛 知	丸山 益生	愛知県岡崎西高等学校校長	0564-25-0751	中野 達明	石川県松任市立松陽小学校校長	0762-76-1266
24	三 重				正津 正章	福井県大野市立下庄小学校校長	0779-66-2350
25	滋 賀	土井 美明	滋賀県立栗東高等学校教頭	0775-53-3350	宮崎 満彦	岐阜県立羽島高等学校校長	0583-92-2500
26	京 都				田中 耕一	静岡県立富士宮北高等学校校長	0544-27-2533
27	大 阪	高橋 實	大阪府立守口北高等学校校長	0729-54-3832	原田 常弘	愛知県稲沢市立吉良中学校校長	0563-35-0350
28	兵 庫	森木 峻一	兵庫県立西宮南高等学校校長	0798-45-2043	池田 民也	三重県立津高等学校教諭	0592-28-0256
29	奈 良	渡矢 俊成	奈良県橿原市立敬徳中学校校長	07442-7-1444	黒川 博史	滋賀県草津市立草津小学校校長	0775-62-0124
30	和 歌 山				下井 有之	京都市立竹間富小中学校校長	075-222-0852
31	鳥 取				横山 昌弘	大阪府枚方市立桜丘北小学校校長	0720-47-2682
32	島 根	高橋 邦好	松江市立本庄小学校校長	0852-34-0520	山下 昭往	大阪府立住吉第二中学校校長	06-678-0101
33	岡 山				吉井宏一郎	兵庫県教委事務局体育保健課副課長	078-362-3787
34	広 島				阪本 勝彦	〃 体育保健課学校体育係長	078-362-3787
35	山 口				浦久保 繁	奈良県立添上高等学校校長	07436-5-0558
36	徳 島				木津 乾	和歌山県立星林高等学校校長	0734-44-4181
37	香 川	益田 勉	香川県立高松西高等学校校長	0878-82-6411	山下 旭	鳥取県東伯郡東伯町立東伯中学校校長	0858-52-2326
38	愛 媛				梶谷 忠幸	鳥取県平田市立平田小学校校長	0853-63-3155
39	高 知				万川 淳	岡山県市立鹿田小学校校長	086-225-4846
40	福 岡				木下 亮	広島市立戸坂小学校校長	082-229-0250
41	佐 賀				入江 彰治	山口県防府市立中関小学校校長	0835-22-0566
42	長 崎				藤本 忠昭	徳島市立南部中学校校長	0886-69-0724
43	熊 本				髙田 英雄	香川県高松市立山田中学校校長	0878-48-0071
44	大 分	大津留英二	大分県立別府羽室台高等学校校長	0977-68-5067	村上庄次郎	愛媛県松山市立みどり小学校校長	0899-52-0456
45	宮 崎				前田 幹夫	高知大学教育学部教授	0888-44-0111
46	鹿 児 島	森田 齊	鹿児島県立鹿児島工業高等学校校長	0992-22-9205	平川 卓	福岡市立室見小学校校長	092-831-3783
47	沖 縄	金城 繁雄	沖縄県東風平町立東風平小学校校長	098-998-2105	中村 祐之	福岡県立羽田東高等学校校長	09437-5-2138
					内田 慎二	佐賀県立神埼農業高等学校校長	0952-52-3191
					山村 秀男	長崎県立諫早農業高等学校校長	0957-22-0050
					木原 雄治	熊本県立水川高等学校校長	0965-52-3611
					是久 隆一	大分市立碩田中学校校長	0975-34-6359
					樋口 駿	宮崎市立西池小学校校長	0985-24-2611
					中村 満	鹿児島市立長田中学校校長	0992-26-3868
					前城 文彦	沖縄県豊見城村立伊良波小学校校長	098-850-9213



情報化時代におくる
メッセージ

おだやかな光、鋭いひかり
大自然の偉大さ、尊さを相手に人のできることは
経験を積み謙虚さを学ぶことです。
信頼の時を重ねて半世紀余
あらゆる印刷のニーズに応えるために
合同は今日も研鑽をつづけています。

● 御注文専門の印刷デパート

東京
墨田

合同印刷株式會社

東京都墨田区業平2-9-13 TEL(3624)6111代 FAX(3621)4620

代表取締役会長

長 棟 至 元

代表取締役社長

長 棟 和 子

財団法人 日本学校体育研究連合会 特別賛助会員

新刊紹介

編集・発行 (財)日本学校体育研究連合会

中学校選択制授業の計画と展開

— 体育分野 —

新学習指導要領に基づく望ましい選択制授業の実践

本書は、選択制授業の進め方の理論と実際について、東京都の中体研のグループが3カ年間取り組んだ努力の結晶です。指導実践の計画例は、本連合会傘下の先進地区や学校の資料も活用・紹介されています。

選択制授業をどのように進めていけばよいのかについて、個人・学習グループ・ブロックなどで広く学習実践の資料としてご活用ください。

(申込み方法 — 郵便または電話で本部まで)

(財)日本学校体育研究連合会事務局

〒151 東京都渋谷区代々木神園3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内

TEL 03-3465-3954 FAX 03-3465-7464 (係・山本)

学校でまとめてお申し込み頂ければ割引価格にて購入できます。

詳しくは、TEL 048(649)0511 ミリオン株までどうぞ。

新・栄養源。

ミリオンパワー[®]



無臭ニンニク

3g×120袋 7,500円(税別)

財団法人 日本学校体育研究連合会 特別賛助会員

総発売元 ミリオン株式会社 〒331 大宮市桜木町1丁目12番5号

教育吸圧(緩圧)シューズ

舗装道路とコンクリートの建物は、カガトの骨を破壊し、疲労骨折を誘発している。

——ヒールストライクの衝撃圧力を吸収し、
反射圧力を緩和する。——

吸圧 #200

吸圧 #600

吸圧 #800



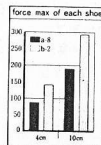
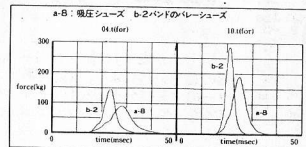
カラー：白・赤・青・黄・緑
サイズ：14.0～29.0cm

カラー：赤・青・黄・緑
サイズ：21.0～29.0cm

カラー：赤・青・黄・緑
サイズ：20.0～29.0cm

JESに学問を!

科学された教育(吸圧)シューズ!



result table of shoe					
	A	B	C	D	E
1		force(kg)	acc max(m/s ²)	acc min(m/s ²)	displacement(m)
2	a-B 04	88.8	343.28	-401.44	-6.12
3	a-B 10	191.98	960.6	-828.06	-7.19
4	b-2 04	144.18	348.59	-433.36	-2.61
5	b-2 10	293.92	609.48	-537.2	-3.46

筑波大学スポーツ科学研究室



(財)日本学校体育研究連合会特別賛助会員

文部省許可(雑体第32号) 公益信託 日本教育シューズ学校体育振興基金

日本教育シューズ協議会